

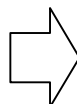
一般的に粗朶を用いる工法として、粗朶沈床があるがこれは水中部に施工するものである。

粗朶工法の事例写真

粗朶沈床



杭木打ち込み



沈設位置に移動



沈石投入

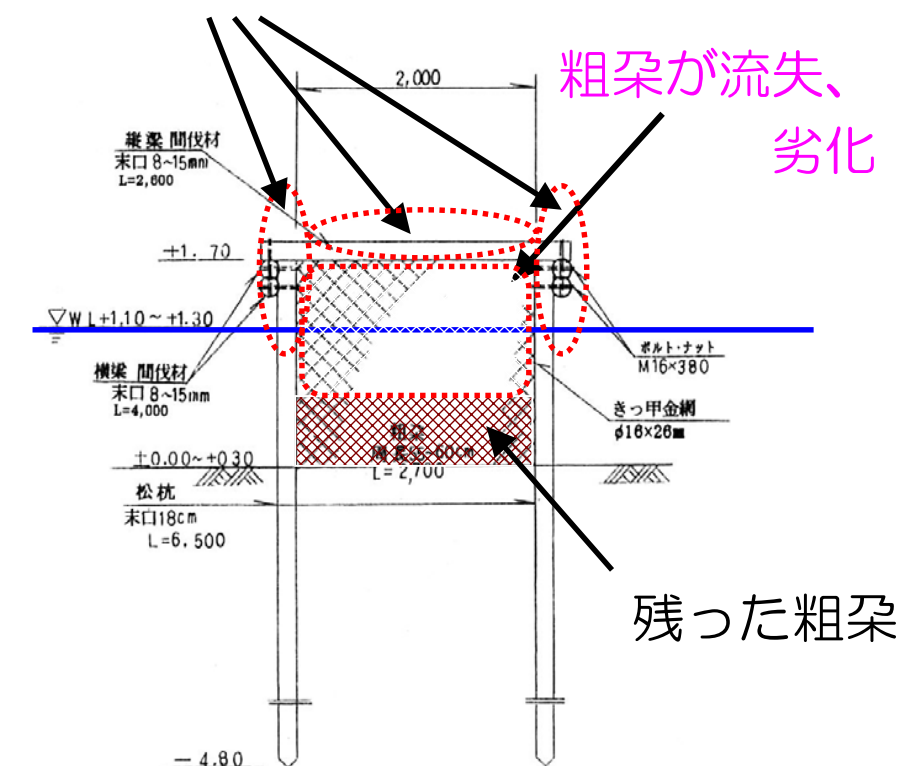
粗朶消波工の課題

一般に、粗朶を使用した伝統的な工法は、水中に沈め、水中における粗朶の劣化が少ない点を活用したものであり、現在も採用され、堅牢な構造物として用いられている。これに対して、緊急保全対策で採用されている粗朶消波工は右記に示すように、水上部と水位近傍の乾燥と湿潤を繰り返すような環境では、粗朶や杭の劣化に伴う流出や周辺環境への影響、消波機能の低下が課題となっている。

今後の方針

消波が必要とされる場合においては、素材の特性や維持管理面を踏まえ、必要な機能を満たすような構造を検討する。  
既存の粗朶消波工については、現地の波浪状況や植生の保全・再生状況等を総合的に判断して、補修や撤去等の検討を実施し対応する。

杭劣化、杭抜け



粗朶消波工の課題